

## あなたのスキルは社会に役立つ

2011年3月11日の東日本大震災発生直後にHack For Japanは発足しました。今後発生しうる災害に対して過去の経験を活かすためにも、エンジニアがつながり続けるためのコミュニティとして継続しています。防災や減災、被災地の活性化や人材育成など、「エンジニアができる社会貢献」をテーマにした記事をお届けします。

### 第75回

## エフスタ!! TOKYO 2017レポート 地方を出て、東京で働くことは?

● Hack For Japan スタッフ 鎌田 篤慎 (かまた しげのり) [Twitter @4niruddha](#)

我々、Hack For Japanではこれまでの復興支援に関わる活動から、東北地方で頑張るさまざまなITエンジニアたちと出会い、その人たちが活動するコミュニティともつながっています。今号では、過去にも何度か紹介したことのある福島のコミュニティ「エフスタ!!」<sup>注1</sup>が主催した「エフスタ!! TOKYO」の様子をお伝えします。エフスタ!!は福島県でもひときわ元気のある、ITエンジニアのためのスキルアップ応援コミュニティで、「エフスタ!! TOKYO」は福島県外で行っている活動の中で、定期的に東京で開催されているイベントです。昨年2017年12月16日に開催されたこのイベントの様子から、勉強会やイベント運営のヒント、そして震災から徐々に立ち直りつつある現状と、将来を担う福島の学生らとともにに行っている地方の未来を考える活動をお伝えしたいと思います。

### 「エフスタ!!」とは

初めて「エフスタ!!」というコミュニティを目にする読者の方のために、簡単にこのコミュニティについて紹介します。エフスタ!!ではIT業界で働く人たちが楽しんで仕事ができるよう身の回りのIT業界を変えたい、夢と希望をもった技術者を育てたい、そのために教育に力を注ぎたいという考えから、エフスタ!!の地元である福島のITが変われば、おもしろくなれば、夢と希望を持った技術者が増える、そうすることで世界を変える技術者がやがて誕生すると

注1 <http://efsta.com/>

いう発想で、そのような理念を実現するためのきっかけ作りの場として運営されています。

### Youは何しに東京へ?

さて、今回紹介する「エフスタ!! TOKYO」のテーマは「Youは何しに東京へ?」と題して、首都圏で働く地方出身のITエンジニアが何を求め、なぜ東京にきたのか、地元への思いなどを共有しようというものです。講演者は、自身の地元と東京やシリコンバレーで働いた経験からくる、働くことについての考え方などを参加した多くの学生や社会人に伝え、地元福島を、そして地方を盛り上げていくヒントを探る勉強会となりました。

### 海外から見た東京 ～人生100年時代の働き方～

Hack For Japanのメンバーでもあり、過去にシリコンバレーで働き、現在は楽天(株)で働かれている吉岡弘隆さんはご自身が今、力を入れている読書の内容を軸に講演をしてくださいました(写真1)。まず冒頭で、昨年話題となったリンダ・グラットン著の『LIFE SHIFT』で紹介された、これからの人生100年時代の働き方を引き合いに出し、参加された福島県の学生さんや若い社会人に向けて、自分がどんな人生を歩みたいのかは自分自身で考えるしかないという視点を伝えられました。

今の20代の人たちは20世紀に生まれ、21世紀に仕事をし、医療の進歩から22世紀まで生きる時代

## エフスタ!! TOKYO 2017レポート 地方を出て、東京で働くことは?

に生きており、3世紀をまたにかけて生きるというのは過去に例がありません。両親や祖父母などの前世代の生き方が参考にならない、ロールモデルが存在しない時代ということから、そうしたよくわからない時代の到来に備えて、自分がどんな人生を歩みたいのかを自分自身で強く意識する必要があるということです。

そうしたことに加えて、教育も就職も経済も家族も、何も考えずに既存のしくみに乗ってさえいればよかった時代から、そうしたしくみが成立しない時代となり、これまで誰かが担保してくれていた世の中の暗黙も、背景にある本質的なしくみを知らない個人が生き抜いていくのが困難な時代になりつつあると伝えられました。吉岡さん自身、高度成長時代のロールモデルがマジョリティであった時代に生き、良い大学を出て、給与の高い有名会社に所属し、定年後は年金で生活することが価値とされた当時と現代を比較しながら、これからはそれらが崩壊し、変化することが当たり前となっていくことから、副業なども合わせ人生がマルチステージとなっていくと予測されました。お金だけではなく、健康や仲間、知識や多様性のあるネットワークなどが新しい時代を生き抜いていくのに重要な資産となると説かれました。今までのしくみに乗って生きていくつもりでいると、定年のころにアタフタし、苦勞してしまうので、今すぐ既存のしくみに乗るという考え方をあらためていこうということでした。

そうした考えをあらためるために、デジカメなどの台頭によるフィルム需要の低下といったパラダイムの変化で、既存の有名な企業が淘汰されてきた歴史や、吉岡さんが長年勤めてきたIT業界の主要プレーヤの変化から、そうしたパラダイムの変化の中でも生存できる武器を持つことの重要性を伝えられました。変化が激しい時代こそ、その変化に適応していくことが重要であり、獲得したスキル自体も陳腐化していくことは自明であることから、変化に対応するためには、新しいスキルを適

切なタイミングで獲得していけるような学び方を身につけること。また、変化が激しい時代は個人の成果も限定的なものになってしまうため、チームで成果を出すことを学ぶのが大切であること。そして、チームで成果を出していくために必要な、利害関係のない友人やコミュニティ、ネットワークなど、お金に換算できない価値を学ぶ大切さを伝えます。

そして、シリコンバレーで働くことは英語の壁や仕事が通用するかしないかで働き続けられるかどうかが決まる厳しい面があるとしながら、IT業界のメッカで偉大な人たちのそばで働けるすばらしさを伝えられました。東京で働くことは重要な仕事が集まるという面と、満員電車や物価の高さなどの生活のしづらさの両面があり、地方で働くことは生活のしやすさといった側面があるのに対して、超一流の人間が東京に集まってしまうため採用自体が難しいなど、それぞれの土地で働くことのメリットやデメリットを紹介されました。どのような土地でもこれからの時代には先ほど紹介したような生存していくための武器を持つことが重要という点を強調しながら、講演を終えられました。

### 神戸→東京→日本

続いての講演は、日本UNIXユーザ会の幹事である法林浩之さんです(写真2)。神戸で育ち、東京で働き始め、現在は日本各地で講演を含め、さまざまな活動をされている経験から得た知見を紹介してくれました。

▼写真1 講演される吉岡さん



学生時代からインターネットに慣れ親しんでいた法林さんは、バブル時代で売り手市場だった就職活動時にインターネットの仕事に就ける企業を選択したことから、東京で働くことになりました。当時の大量採用された新卒の中で周囲に関西人が少ない環境であったことから、その中で存在感を出していくことをあらためて考えた際に、故郷のアイデンティティの大切さに気づいたそうです。出身地はその人の個性であり、個人でも働いていける環境が増えるこれからの時代は、自分を覚えてもらうことが重要で、そういう意味でも自分を構成するアイデンティティを意識する重要性を伝えられました。

また、関西から出てきて東京で働いた経験から、東京での出会いの多さを実感されたことで、故郷への貢献を意識するようになったそうです。その意識から、関西で大規模なイベントを立ち上げ、日本各地でもそうしたイベントを運営するようになり、コミュニティ活動が日本全国に拡がりをみせました。日本各地に足を運んだ中でももの見方が変化し、全国には魅力ある土地がたくさんあることに気づき、働く場所は東京でも神戸でもなくても、楽しく暮らせて働ければ良いのではないかと思うようになったとのこと。地方の仕事がない、賃金が少ないといった課題を解決すれば、魅力のある地方で働けることから、コミュニティマネージャーを務めているさくらインターネット(株)の「さぶりこ<sup>注2</sup>」という会社に縛られず、仕事とプライベートの両方で得た知見をもとに共創していく取り組みを紹介されました。東京で働くのと同じ条件で地方でも働くことができれば、

注2 <https://www.sakura.ad.jp/corporate/corp/sabulico/>

▼写真2 講演される法林さん



あとは出会いの頻度が低いことだけが課題となるので、自ら積極的に東京などのイベントに参加していくことの大切さを伝えられて講演を終えました。

## 快適なムラを出るべきか？

最後の講演はインフラジスティックス・ジャパン(株)の東賢さんです(写真3)。神戸から東京という物理的な移動、国内企業から外資系企業への転職に伴う環境の変化の両方をふまえ、変化の早いIT業界においてどのような考え方で、自分のキャリアや生活と向き合ってきたかについてをお話いただきました。

まず、全体のお話の構成として、自分が心地良いと感じるコンフォートゾーンから抜け出さないと成長しないという点、一方で自分の限界を大きく越えようとパニックとなり、成長につながらないことから、自分の限界を少し超えるストレッチした領域を意識して行動するということが要点として伝えられました。

東さんは兵庫県神戸市出身で、非常に地元愛が強く、学生時代はできれば地元で就職し、生活したいと願うコンフォートゾーンにとどまりたい気持ちが大きかったそうです。そして、関西採用を希望して大阪で就職するも、東京への出張が週の半分を占めるようになり、望まない形で転勤が決まり、東京での生活が始まりました。その中でアプリケーションフレームワーク「ColdFusion」のコミュニティを東京で立ち上げ、そこを通じた縁からさらに縁の拡がりが生まれました。そうしたコミュニティやその後の仕事に影響のある縁は、当時、東京でなければ生まれなかったと東さんは振り返ります。

そうした東京は地方から見ると、もっとも身近な「外国」と表現し、東京であれば日本の最北端、最南端のどちらに飛んでも3.5時間であり、東京にオフィスがあることで日本の多くのレベルをカバーできるという視点や、日本で一番優秀な人材は東京に数多く集まるという点、東京単体でのGDPが世界で見ると15位のメキシコと同等である点、居住外国人の



人数、インターネットコミュニティサービスに存在するコミュニティの数が全国で見て、その3分の2が東京に集中する、などのさまざまな事実を紹介しながら、東京が持つ強みを紹介。想像以上に東京が最優先な状況をふまえて、基本的にお金がかかる面や、都市機能が完成していて、そういう面で成長しない土地というところを差し引いても、現在は東京に住み続ける選択をしているそうです。

世界に目を向けると日本を出るチャンスは何度かあったものの、日本の安全性や英語の側面などで海外に出ることを踏み切れずにいたところ、ひょんな縁から外資系企業に勤めることとなり、またコンフォートゾーンから一歩出ることで、東さんは自分の働き方が180度変わるようになりました。

現在の会社は300人ほどの社員が世界中に散らばっており、東京のように本社に業務が集中しておらず、多くの社員が在宅勤務をしている環境から、グローバルな視点やその地域間の格差を強く意識するようになったそうです。地方から東京へ、東京から海外へと働く拠点を移してきた経験から、自分は何をしたいのか? 何をしていれば幸せと感じるのか? 将来のイメージはあるのか? 何歳まで生きたいのか? 得意なことは何か? 信じる価値は何か? その価値はどの範囲で有効か? などといった問いを聴講者に投げかけます。

自分から世界に働きかけ、何かに貢献することが世界をより良くします。そうした貢献を自分の所属するコンフォートゾーンな世界より一歩抜けたところでできれば、自分自身も成長し、さらにもともと所属していた世界はより快適なものとなっていき、貢献していくことの大切さと、テクノロジーの進化で地域間の境界線があいまいになっている今こそ、共通の言語ややり方を学ぶことの必要性を訴えられました。

参加した聴講者全員に次なるアクションとして、まずは自分のコンフォートゾーンから抜けた外の世界を体験し、できるだけ広く多くの世界を知るこ

▼写真3 講演される東さん



と。また、貢献したり発信したりするための標準的なやり方に必要な英語を学んでいこうと説かれます。そうやって世界を知る、貢献すると、自分の考えていた選択肢以外のアプローチや、自身のルーツ、ユニークさがあらためてわかるようになり、広い世界を知ったうえで物事や快適な場所、楽しいことを選択できるようになっていくとのことでした。

## まとめ

東日本大震災からもうすぐ7年が経とうとしています。この数年、エフスタ!!さんと我々のかかわりの中で、当初の原発問題の現状の話から、徐々に未来の話が増えてきました。そして、若者たちの姿も増えてきました。冒頭で紹介させていただいたエフスタ!!の描く理念が、徐々に結実しているように今回のエフスタ!!TOKYOでは感じることができました(写真4)。福島を飛び出して大きく活躍する人たちとともに、これから長い時間をかけて復興していく福島をみなさんどうぞ応援してください。SD

▼写真4 エフスタ!!東京参加者の集合写真

